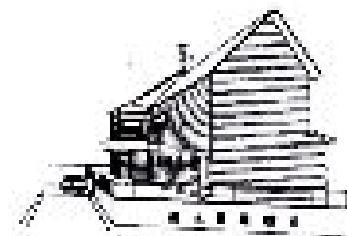


<今朝の聖書から> 毎週聖書を開きますが、聖書を開き、まず読みたいと思います。“読んだことがある”とか、“どんな説教か聞いてやろう”と思う前に、まず読んでみるのです。一回ではなく、何回か読んでみたいものです。週報に“来週の聖書箇所”を書くようにという提案があり、もう何年間もそのようにしていますが、それは、一人で読んでみる時間が持てるためでしょう。讃美歌の番号もありますが、奏楽者の練習の為とか、歌う練習してくるため、と云うよりは、はるかに“何を讃美しているのか”思いめぐらす時間が持てる為だと思います。“聖書が、現代に生活を営む我々に対する神の言葉”であることを信じ、何が語られているのかを“徹底的に聞き”かつ“救いの言葉に向って積極的に、求める”のです。例えば今朝の1節に“子の栄光”とありますが、どんなことでしょうか。“何か信仰深そうな言葉”だと思って通り過ぎるのではなく、毎日を生きている私たちの救いに“どんな係わりがあるのか”しばらく、じーっと考えてみたら、聖書がどんなテレビ番組よりも、沢山話していることが分かります。ヨハネは福音書の最後に“世界もその書かれた文書を収めきれない”と証しています。“これらのこと”で始まりますが、これはイエス様の死と十字架についての教えです。そして“天を見上げて”すなわち祈りの態勢に入られ、御父との深い人格的関わりという土台の上で、まずご自身の為に祈られます。“受難によって父の栄光があらわされますように”それが御子イエスの使命であり、成就なのです。2節では“子にたまわったすべての者”とありますが、その中に私も入っていることを思い出しましょう。むかしの出来事がむかしの言葉で書かれているのではないのです。2節に“お与えになったのですから”とあるのは、先の“栄光”の説明です。3節には懐かしい言葉“永遠の命”について“祈り”の言葉として書かれています。人の決定的な運命を決定する権威をも語られます。8節はまた“なぜなら”という説明から始まります。その前の節の“神の民とされた者に、御父から与えられたものをすべて与え終えた”と語られるのです。その証拠が“私があなたから出たものあることを知り”という言葉で記されてます。9節から“私の為の祈り”があります。聖霊降臨日の前の週に相応しい他ならぬ私たちの為の祈りです。

週報

2010年 5月 16日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式	第一日曜日)
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042